



令和3年11月15日 第851号

一般財団法人日本遺族会 千代田区千代田一丁目六番三階 電話 03-3261-5521 00160-6-25389 編集 毎月1回15日発行 定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

靖国神社 秋季例大祭を斎行 天皇陛下よりの御幣帛奉納

東京・靖国神社では、今年も昨年引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から日程を1日短縮して、10月17・18の両日、秋季例大祭が執り行われた。18日の当日祭には天皇陛下から勅使が差し遣わされ御幣帛が奉納された。また、10月4日に就任した岸田文雄内閣総理大臣はじめ、本会水落敬栄会長名で大真榊が奉納された。

靖国神社秋季例大祭は、ら霊聖奉安祭を斎行して10月17日午後3時、「清」新たに2柱を合祀した。 18日の当日祭は午前10時〜、献饗のち、山口宮司が祝詞を奏上した。 以下に神職が本殿に進み、献饗のち、山口宮司が祝詞を奏上した。 10時30分には、天皇陛下より遣わされた勅使・恭子靖国神社崇敬奉賛会会長、京極高晴元靖国神社宮司らが本殿に進み玉串拝礼を行った。

水落事務局長 代表参拝 靖国神社秋季例大祭で

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」を代表して昇殿参拝した水落事務局長は10月17日、靖国神社で参拝した。水落事務局長は、秋季例大祭、水落敬栄事務局長、尾辻秀久本会名義参拝は見送り、防止の観点から一斉参拝を見送っている。



「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」を代表して昇殿参拝した水落事務局長と尾辻名義顧問は10月17日、靖国神社で参拝した。

菅前総理が靖国参拝 水落会長らが出迎える

菅義偉前内閣総理大臣は10月17日、東京・九段北の靖国神社を昇殿参拝した。同日始まった秋季例大祭に合わせて、水落敬栄本会会長、尾辻秀久本会名義顧問らが出迎えた。菅前総理の参拝は、第二次安倍政権で官房長官に就任する前の平成24年8月15日以来約9年ぶりの参拝となる。菅前総理は、官房長官就任前は毎

局長(本会会長)が代表として靖国神社に昇殿参拝した。 議員連盟は例年、春と秋の例大祭、8月の「終戦の日」に合わせて一斉参拝を行っているが新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一斉参拝を見送っている。



菅義偉前内閣総理大臣と懇談する水落会長と尾辻名義顧問は10月17日、靖国神社で参拝した。

筑波和俊掌典が随員を従えて参進して本殿に昇殿。神前に天皇陛下よりの御幣帛を奉って御祭文を奏上し、玉串を奉奠して拝礼した。



秋季例大祭に天皇陛下より差し遣わされた勅使は10月18日、靖国神社で参拝した。

本会関係者 栄えある受章 秋の叙勲

政府は令和3年度秋の叙勲及び褒章受章者を発表した。本会関係者は次の方である。 ●藍綬褒章 元日本遺族会専務理事 村上和男氏(68歳) ●紫綬褒章 元副会長長兼女性部長 川上淑子氏(日本遺族会元副会長、長野県遺族会元副会長)

年靖国神社を参拝していたが、就任後は参拝を控えていた。参拝後、報道陣に「国のために尊い命を捧げられた御英霊に対して、尊崇の念を表すと同時に御霊の御冥福をお祈り申し上げたと述べた。

82歳。葬儀は大田市・大澤寺で行われた。喪主は夫守孝氏。 野田頭佑氏(日本遺族会元理事、神奈川県遺族会元会長。 10月14日、逝去された。 82歳。葬儀は鎌倉市・大船ほうじりで行われた。 喪主は長男弘修氏。 日本遺族会専務理事、沖繩県遺族連合会元会長。 10月22日、逝去された。 94歳。葬儀は那覇市・サントリー那覇北警察署で行われた。喪主は長男盛邦氏。

酒は百薬の長」という言葉を存じたい。 故事ことわざ辞典によると「適量の酒はどんな良薬よりも効果がある」と、お酒を養育した意味。お酒は心筋梗塞や狭心症などを予防する効果が確認されており、アルコールが悪玉コレステロールを増加を抑え、善玉コレステロールを増加。血液が血管の中で詰まりにくくなるため、少量のアルコール摂取は心臓病の予防効果が期待できるとのこと。●飲酒量と死亡率の調査では、日本人の研究結果で男女とも1日平均アルコール消費量の平均23グラム未満(日本酒1合未満)が最もリスクが低い。ただし、これらの研究結果は日本酒1合あたりで最もリスクが低いのであって、お酒を毎日大量に摂取すれば心臓病、死亡のリスクは上がる。厚生労働省の指標では、1日平均純アルコールは20グラム程度。つまり日本酒であれば1合、ビール中瓶(500ml)一本、焼酎25%で0.6合、ワインなら14%で180ml一杯、ウイスキーなら43%で60ml(ダブル一杯)に相当する。●お酒が過去数十年もの長い間、人間の友であつたことは間違いありません。これから忘年会、新年会と酒量が増える機会が増えます。心にも体にも良い節度ある飲酒を心掛けたいものだ。(M)

英霊の御心を 次の世代に伝えましょう

英霊の御心を 次の世代に伝えましょう

令和四年版 靖国カレンダーを 家庭にかけましょう

令和三年版から中綴じの二つ折りタイプに変わりました。

送付先 維持会費は左記宛に送金願います。 郵便局 郵便振替 口座番号 00160-0117004 口座名 英霊にこたえる会 靖国カレンダー業務室

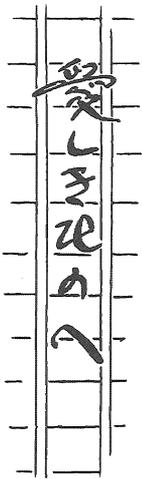
巡回特別企画展開催

兵庫県で3342人が来場

昭和館

昭和館が毎年実施している巡回特別企画展が、10月7日から10月17日まで兵庫県美術館館ギャラリーで開催された。「くらしにみる昭和の時代 兵庫展」と題された今回の企画展は、神戸大学と共催し、兵庫県に関連する実物資料・写真の他、大村崑さんのオーラルヒストリーを初公開した。

昭和館では、平成13年から巡回特別企画展を開催しており、今回は39会場、来場者は3342人、会場は、県内各地の遺族会をはじめ、共催した神戸大学の関係者等が来場し、約1200点が展示された。



妻への手紙

陸軍大尉 皆川 孫六
昭和三十九年十月十日

東部ニューギニア・セビック州マリンにて戦死
福岡県南会津郡只見村出身 三十二歳

（前略）
今更言ふ必要も無いが、俺の出征後は将校の家族として、世間の人々に非難をされることの無い様、つつましく身を修めて坊やの教育に全力を盡せ。子供の可愛さに溺れて世に言ふ親馬鹿にならない様にせよ。又、武人たるもの一度戦場に立てば一死以て生還を期せず。一片の肉をも止めず散華するは、故より本望とするところだ。殊に近代戦に於いては、遺骨の帰らざる事あるは決して珍しくはないのだ。假令、遺骨帰らざる事あるも、国家の為充分の御奉公をしたものと思ひ喜ばねばならぬ。常々より此の覚悟を持つことが必要だ。田子倉にも時々行つて泊る様にせよ。
（中略）
皆によろしく。
十四日
皆川

美枝子様

大御心、やすめまつらん とこしへに
我情國の 神となりて

（原文のまま）
【令和三年十一月靖国神社頭掲示】
愛しきものへ

制作・展示をした「戦場に行った神戸大学の学生たち」では、戦時中の学生徒出陣により、戦場に行った神戸大学の学生たちがたどった過酷な体験について紹介した。今回の企画展で初公開となる「大村崑さんオーラルヒストリー」では、神戸市長田区出身の喜劇俳優・大村崑さんが体験した戦中・戦後を証言映像として上映し、好評を博した。他にも兵庫県内に関わるニュース映画や、県内に関わる証言映像等が上映された。（問い合わせ先：昭和館学芸部TEL03・3222・12577）



展示資料を見学する来場者＝兵庫県で

ソ連等から收容した遺骨 DNA鑑定で身元が特定

厚生労働省が令和3年9月22日に開催した第7回身元特定DNA鑑定会議において、ソ連抑留中死亡者遺骨収集集団（ハバロフスク地方第2次）が平成13年8月に收容した遺骨から1柱、ソ連抑留中死亡者遺骨収集集団（ハバロフスク地方第2次）が特定された。なお、身元が特定された遺骨の遺族への返還については、現在調整中である。

2県で日章旗返還

OBONソサエティ

「戦没者等の遺留品返還に伴う調査」事業で、OBONソサエティから本会に照会があった日章旗について、山形県と福島県で遺族が判明した。山形県では、日章旗が酒田市から出陣し、昭和20年6月20日、フィリピン

九段短歌

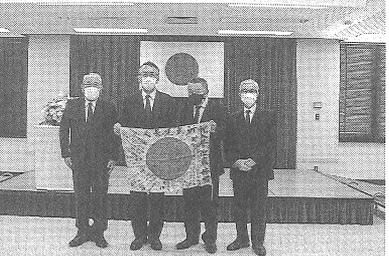
作品を
お寄せ
ください
なまえ

戦死せし父の墓碑銘石むして文字読めぬとも指でなぞりぬ
小諸市 塩川 篤子
文箱に彫らむ手紙の束のあり戦地の父は今も生きおり
豊明市 近藤 淳子
四谷より皇居守りし近衛兵戦後生き抜き今年逝きたり
小田原市 田中 恵一

椰子の実の落つる音にて目覚めれば鳥に餓死せし兵ら思はゆ
富士吉田市 蒼沼 勝由
もの言わぬ戦争遺跡の砲台は鳥に残りて語り部となり
喜原市 安原 恭子
宵の庭連なるともし火揺らきおりの御霊かじつと見
熊本市 藤本 英輝
蕃音機響箱箱から見つけ出し若鷺の歌手回しに聞く
甲州市 三森 一雄
戦没者遺骨収集遺留品慰霊平和を念じ二時間講話
南相馬市 原 芳広
平和の句声出し学ぶ沖繩上天まで届け七夕の星
蒲都市 小林 和代
ニューギニアの父の遺骨が還るかもDNAへ期待をし
佐世保市 富永八重子

今月は終戦記念日の前後に詠まれた歌が多く、亡き父を偲びつつ平和希求の思いを子や孫に伝えたいとの思いの歌が多くありました。二首目の砲台は、支那に浮かぶ岩島の島に昭和三年から六年に及ぶ歳月をかけて設置された東洋一といわれた巨大なもので、今は遺跡として観光コースになっているそうです。先の戦争が風化していく中で「広島原爆ドーム」「長崎の山王神社の一本足の鳥居」のように、この砲台も戦争遺跡として当時を伝えて欲しいとの思いを込めて詠んだそうです。
（選考者）

戦没者遺品返還式



日章旗を受け取った佐藤厚さん(右から2人目)と東海林正平田遺族会会長(右端) = 9月22日、酒田市で

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰（遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝）、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う若年層（孫・ひ孫）の皆様も是非申し込みを。

年間購読料/1,560円
(1年間12回 税金・送料込)

お申込み
日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521